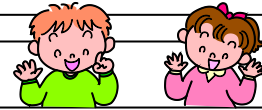




子どもたち一人一人が笑顔ですごす学校をめざして



雪降って、運動場いっぱいの子どもかな

「雪とけて 村いっぱいの子どもかな (小林一茶)」という俳句があります。

1月27日(月)前日からの雪で、運動場は真っ白でした。こんなに雪が積もるのは何年ぶりでしょう。交通機関が乱れるなど、大人にとっては大変でしたが、子ども達は久しぶりの雪に大喜びでした。中休みや昼休みには、たくさんの子も達が、運動場に出て、雪遊びを楽しんでいました。友達や先生と一緒に、雪合戦をしたり、雪だるまや雪うさぎをつくったり、大いに楽しんでいました。子ども達が雪の冷たさやきれいさ、自然や友達によさに触れ合うよい機会・体験になりました。どの子どもともよい表情をしていました。



雪がっせんしたよ 雪がわれたとき、すばっといい音したよ
(1・2年生が書いた作文や詩より)

雪をまるめて大きな大きなボールをつくったよ でも大きすぎたらすぐわれる。ちょっともったいない。

雪がこんなにふったのはじめてだったよ 雪をさわったらふわふわだったから 気もちよかった

ゆきだるまをつくるとみんなからほめられました。あしたもつもってほしいな。またやりたいです。

ゆきあそびをしました。大きいゆきだるまをつくってたのしかったです。



感謝の気持ちを大切に 調理士さん、たくさんの皆さん ありがとうございます

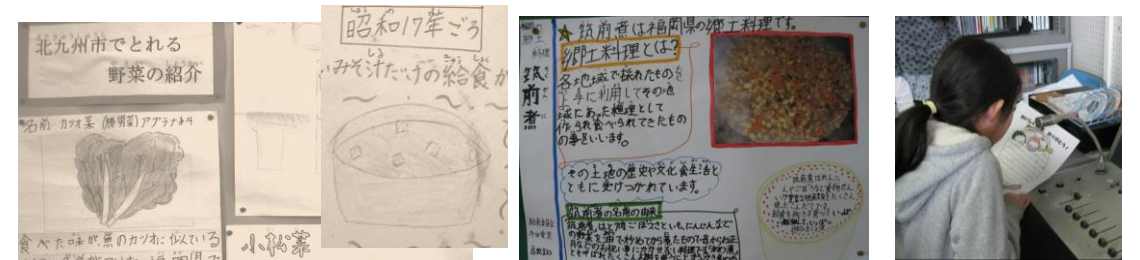
1月24日～30日は給食週間です。折尾東小学校では、食べ物のありがたさや大切さに気付かせ、給食や食べ物をつくってくださっている人たちへの感謝の気持ちをこめて次のような取り組みをしました。



- 給食室にはる絵をかく。(1・2年)
- 調理士さんへのお礼の手紙を書く。(全校)各クラス1名が放送する。
- 給食委員会が「地場産野菜・郷土料理の紹介ポスター」や「給食の歴史紹介パネル」をつくる。
- 「給食ができるまで」のビデオ(岡本先生自作)を視聴する。



給食週間の取り組みでは、5・6年の給食委員さんたちが、いろいろなアイデアをだして、前向きに取り組んでくれました。給食週間の取り組みを通して子ども達は食べ物大切さや周りの人の思いを受け取っていったようです。



給食委員会の取り組み

クラス代表の放送



給食の調理のビデオ

6年生のお弁当の模型



「ありがとう」・・・とても素敵な言葉です。

私たち人間は、一人で生きていません。いつもどこかで誰かのお世話になったり、助けてもらったりしながら生活しています。そのことに、感謝の気持ちを持ち、また、どこかで人のために何かができる子どもを育てていきたいですね。